

板川地区砂防えん堤工事の最終打設が完了!!

～ 新工法の採用により工期を短縮 ～

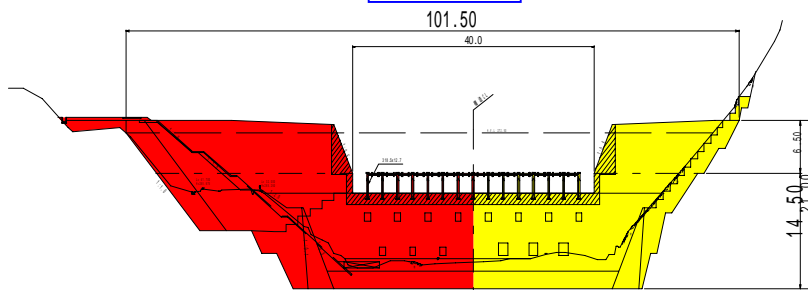
県南広域振興局土木部 一関土木センター

県では、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震により磐井川上流域に堆積した不安定土砂から下流の市街地や道路の安全を確保するため、平成21年度から一関市板川地区において、板川砂防えん堤工事を進めています。

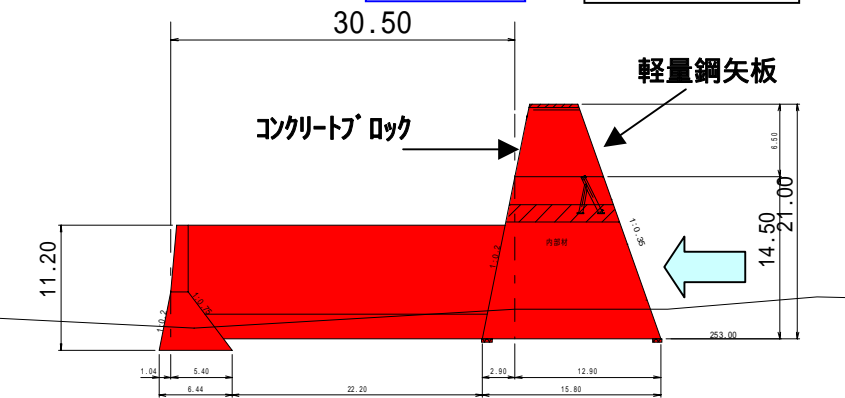
板川砂防えん堤工事では、県内初となる「INSEM-SBウォール工法」を採用した結果、通常はコンクリート打設に19ヶ月程度要するところを、16ヶ月でコンクリート打設を終了し、3ヶ月の工期短縮を図りました。

平成22年11月24日に現地で開催した最終打設式には、県や市、工事施工業者など約30人が集まり、堤体の最終打設を祝いました。今後は、平成23年3月の工事完成に向けて、押え盛土工などの工事を進めていきます。

下流面図



断面図



位置図



INSEM-SBウォール工法とは？

現場発生土にセメントを混合し、残土やセメント使用量の低減を図るINSEM(インセム)工法により構築した堤体内部材を、軽量鋼矢板(Steel wall)、コンクリートブロック(concrete Block wall)で保護することにより、現地発生土砂の有効活用による環境負荷の低減や、設計・施工の合理化、コスト縮減などを図る工法。

板川砂防えん堤では、槻木平砂防えん堤の堆積土を材料に使用している。

クレーンによる最終打設



万歳三唱

